

モード Mode は語る

中野 香織

ブランド成長の裏面描く

仏LVMHモエヘネシー・ルイヴィトンの会長兼最高経営責任者（CEO）、ベルナール・アルノー氏は世界一、二を争う富豪である。彼がどのように高級ブランドビジネスを成長させてきたかを描くドキュメンタリー「カシミヤを着た狼（おおかみ）～Kingdom of Dreams～」(全4章)が、動画配信サイトHuluで独占配信されている。

戦後から時がたち、古びて衰退しかけていたブランドに彼は商機を見いだした。敵対的買収や事業の切り捨てを容赦なくおこない、才能ある



アルノー氏(左)が世界的ブランド企業を成長させてきた姿を描く
©KINGDOM OF DREAMS LTD
2022

デザイナーを投入して再生させる。そのプロセスに大きく貢献するのは、利潤よりもむしろ創造性を発揮

アルノー氏の実録番組

することに喜びを覚える天才デザイナーたちである。ディオールに再び輝きを取り戻したジョン・ガリアーノ氏、ジバンシィを再生させたアレキサンダー・マックイーン氏、そしてルイ・ヴィトンの既製服に成功をもたらしたマーク・ジェイコブズ氏。栄光を手にしたデザイナーの中には破滅的な最期を迎えた者もいるが、その背景には「神」として君臨するアルノー氏の利潤第一のやり方があったことが描かれる。

90年代にグッチを再生させたトム・フォード氏は、アルノー氏による

買収を警戒し、フランソワ・ピノー氏率いる仏PPR（現ケリング）に買収される方を選んだが、結局は退任させられた。高度資本主義の下では、デザイナーも使い捨ての歩兵扱いなのだと示唆される。

最後の章では、大量廃棄された衣類や、1000人を超える死者を出したバングラデシュの縫製工場崩落事故の様子が映し出される。おびただしき犠牲と尽きぬ欲望の上にそびえたつ帝国はますます栄え、アルノー氏の資産は2000億ドルを超えた。「エメラルドの都のカーテンの奥には機械を回している男がいる」という語り重い。心をもつ人間の「美しさ」とは何なのか。ファッションが本来、向き合うべき課題を問いかける。